

タケミ・コーポレーション ソリューション協同組合様

～技能実習生の取り組み～



代表取締役社長

ひろせ たけみ

廣瀬 丈巳さん

ソリューション協同組合 理事長

あらた まさし

新 雅志 様

廣瀬社長と、ソリューション協同組合の新理事長である新様の対談が実現！
ベトナムの実習生を当社に派遣・受け入れまでの経緯や、
これからの展望について話を伺いました！

■ 廣瀬社長と新理事長の出会い

会計事務所で出会った後、すぐに技能実習生 受け入れのためベトナムへ！

社長 最初に新さんとお会いしたのは7～8年前、とある会計事務所でした。以前から海外の人材確保について相談していたため、会計事務所の先生が紹介してくださったのです。

理事長 廣瀬社長は非常に温厚な笑顔と雰囲気印象的でした。お話を伺い、すぐにお互いの日程を調節し、2泊4日でベトナムへ。現地では、面接から食事まで2人で一緒にいる時間が長く、交流を深めることができました。

社長 基本的に実習生を迎え入れるときには、一緒にベトナムに行っていたいでいます。

理事長 そうですね！印象深いエピソードもたくさんあります。以前、廣瀬社長と通訳の女性の3人でベトナムのお寿司屋さんへ行ったときのこと。社長が通訳の女性がつくった焼酎の水割りに口をつけた途端、吹き出してしまったのです。「焼酎2割・水8割」という説明がうまく伝わらず、「焼酎8割・水2割」と、かなり濃い水割りを作ってしまったようです（笑）

社長 笑ってしまって、もう飲めませんでした（笑）とても盛り上がった楽しい思い出です。

■ 実際に実習生を受け入れた感想

合計8名のベトナム人を受け入れ、理想的な勤務体制が整った

社長 現在、技能実習生と特定技能外国人、それぞれ4名の計8名が当社で働いています。当初理想としていた体制になりました。ソリューション協同組合から紹介される方たちは、とても勤勉で優秀だと感じます。

理事長 それに関しては、社長含め、タケミ・コーポレーションの方々の教育によることもとても大きいと思います。私たちがいくら実習生を紹介しても、人材育成の環境が整っていなければ、問題が発生してしまうことも。廣瀬社長やタケミ・コーポレーションの社員の皆さんは、「会社が人材を育てる」という理念をしっかりと持っていらっしゃるのだと思います。

社長 そのようなお言葉をいただけ、嬉しい限りです。引き続き、働きやすい環境づくりには、注力していくつもりです！

■ 実習生の反応

タケミ・コーポレーションの魅力を感じている方ばかり

社長 給与などの待遇面や職場環境も含めて、「仕事もプライベートもいきいき楽しんでいる」との声をいただいています。実際に技能実習が終了し、一度帰国した後に、再び当社に戻って働いてくれています。

理事長 とても素晴らしいことですよ……！特定技能外国人には3年勤務した後に転職できる選択権がありますが、実習生たちは自ら「引き続き働きたい」とタケミ・コーポレーションに残っています。大事にされている分、実習生も「ここで頑張ろう」と思うのでしょう。

社長 ありがたいことに、今のところ辞めた方はいません。制度の制約はありますが、今後も新しい方を受け入れていく予定です。

理事長 実習生の入社後は、月に1回社宅を訪問し、実習生はもちろん、教育係でもある日本人の社員の方からもヒアリングを行っています。話を聞く中で、社員の方々も実習生を大切に思い、育てていることが伝わってきました。

社長 最初はどうしても言語の壁がありました……。特殊な道具も使用しているので、写真&ひらがな表記の単語帳を作成し、覚えてもらっています。

理事長 地道で大変な作業ですが、それを徹底していらっしゃるため、実習生もありがたいと感じていると思います。

社長から新理事長へ メッセージ

新さんはベトナムでとても顔が広い上に、信用できる機関をしっかり把握しているため「この人に任せれば安心だ」と信頼しています。今後も力を合わせていければ幸いです。

新理事長から実習生への メッセージ

技能実習生になるには、実技や日本語のテストなどの課題がありますが、それを乗り越えれば日本に家族を呼んで一緒に住むことも可能です。スキルを磨いた自習生が、将来は日本人の若手社員を指導するポジションになることもあるでしょう。これからもぜひ頑張ってください。



中途採用社員に聞く!

入社後のギャップ



中途入社の方に、入社前後で感じたイメージの違いをお聞きするこの企画。
今回は工事部の前田さんにお話を伺いました!
入社後は仕事以外のところで、意外な苦勞があったようです。



まえだ まこと
工事部 係長 前田 誠さん

入社前に感じていたタケミの魅力

① 社員同士の仲が良い!

前職は建設業をしており、その際にタケミ・コーポレーションと関わりがありました。入社前に感じていた魅力は、社員同士の仲の良さ。休みの日に一緒に出かけたり、仕事終わりにご飯を食べに行ったりしているという話を、よく聞いていました。

② 社長が社員のことをしっかり考えてくれている

社長の人柄も大きな魅力の1つ。以前お話をさせていただいたとき、「人を活かす会社になりたい」とおっしゃっていたのをよく覚えています。私はその言葉に惹かれ、タケミ・コーポレーションへの入社を決意しました。

③ スキルアップへのフォローが手厚い!

入社後により感じたことではありますが、スキルアップにつながるようなことも何かと支援をいただいています。先々のことを考えて資格を取得したいと思ったとき、他の会社と比べて許可が下りやすいのが当社の特徴。資格だけ取って辞めてしまうような人がいるため、取得に関しては慎重になっている会社も少なくありません。しかし、タケミ・コーポレーションは社長のお言葉通り、人を活かすためのフォロー体制も万全。安心して働くことができます。

入社後に大変だと感じたこと

関東は交通量が多く、移動時間がかかる

私は関西出身なのですが、関東の交通量の多さにはびっくりしました。「この距離ならこれくらいの時間でいけるだろう」と思っても、実際にはもっと時間がかかります。通勤でも現場に行くときでも、余裕を持って出発することが重要だと痛感しました。以来、朝も少し早起きし、初めての現場に行くときは、ナビで調べた時間の30分前には出るようにしています。前職でも朝は早かったため苦ではないのですが、早起きが苦手な人にとっては大変かもしれません。

タケミでの仕事を
スムーズに進めるために

2つの資格があると
仕事の幅を広げられる!

フォークリフトと玉掛けの資格を持っていれば、現場でより活躍できるかと思います。入社後にも取得できるので、持っていない方はぜひ取得をおすすめします!

ベトナム実習生 & ベトナム文化紹介!

今回は実習生のホアンさんを直撃!日々、一生懸命に仕事に取り組んでいるホアンさんのお人柄に迫ります。また、母国であるベトナムの魅力もご紹介。ぜひ文化に触れ、実習生の皆さんともお話をしてみてください!



◆ 日本に来て食べられるようになった物
「納豆」

◆ ベトナムのおすすめの場所
「ホーチミンの寺院」

◆ 好きなベトナム料理
「フォー」 朝食によく食べます。日本のフォーより野菜は少なめです。

工事部 外国人特定技能者

ヴ ヴァン ホアンさん

日本に来た理由

家族のために貯金をすること

2017年12月に日本に来ました。一番の理由は、家族のためです。私には、父母と子ども2人がいます。子どもは、10歳と12歳の育ち盛り。ベトナムでは仕事を頑張ってもなかなか貯金することができなかったため、金銭や生活で困ることがありました。頑張った分だけ貯金のできる仕事をしたいと思ったことが、日本に来た理由です!

入社して良かったところ

社長や社員のみなさんが親切

社長が仕事熱心で経験豊富で、たくさんのことを教えていただいています。そして、周りの社員のみなさんも親切です。とてもありがたいです。

仕事で大変なこと、楽しいこと

日本語が上手く話せなくて困ることも

仕事の中でも、日本語がうまく話せないことが大変です。ただ、社員の方の中には、優しくゆっくり教えてくださる方もいて助かっています。

仕事は、機械修理を担当しており、若手の人と趣味の話をしながら楽しく業務をしています。機械を上手く修理できたとき、やりがいと楽しさを感じます!

将来の夢

家族のみんなと元気で幸せに暮らすこと

今は一人暮らしで、家族とは会えず寂しいです。たまにビデオ通話をするなど、コミュニケーションもとっています。家族全員で、楽しく元気に過ごすことができれば、何よりも幸せだなと思います!



ベトナム文化をご紹介します！



料理

ベトナムならではの「バンセオ」

バンセオはベトナム風のお好み焼きとも言える料理で、ひよこ豆粉とココナッツミルクを混ぜて作った生地のエビや豚肉、もやしなどの具材を包み込んでカリッと焼き上げます。外はパリパリで中はしっとりとした絶妙な食感が楽しめる一品です。小さなサニーレタスやミントの葉でバンセオを包み、ヌクチャムという甘辛い魚醤ベースのソースに浸して楽しめます。日本ではまだあまり知られていないかもしれませんが、ベトナムを訪れる際にはぜひ試してみてください！



マナー

靴を脱ぐ場所に要注意！？



ベトナムでは、家庭を訪れる際にはもちろん、時にはオフィスや寺院、公園の休憩スペースなどでも靴を脱ぐ必要があります。また、家庭でも、リビングに入る際のみではなく、玄関に入る前に靴を脱ぐことも。

特に、ベトナムの寺院を訪れる際は、靴を脱ぐだけでなく、内装前のマナーも大切です。寺院敷地内での大声での会話やスマホの使用は控え、静寂と敬意を持って過ごすことが求められます。また、寺院に参拝する際は、適切な服装を心掛け、肩や膝を隠すことを推奨されています。

スポーツ

サッカー・バドミントンが人気を集める！

ベトナムのサッカー熱は年々高まっており、特に2018年のU-23アジアカップでの快進撃は多くのファンを熱狂させました。全国リーグ「Vリーグ」も盛り上がりを見せており、スタジアムは連日多くの観客で賑わっています。

バドミントンも非常に人気があります。ベトナムでは、家族や友人と気軽に楽しめるスポーツとして広く親しまれています。特に都市部では、夕方になると公園や広場にバドミントンネットが張られ、多くの人々がプレーを楽しんでいます。ベトナムのトップ選手が国際大会で活躍していることもあり、大人気なスポーツです。



完成間近!

カキトリ機の軌跡

今回はタケミ・コーポレーションで開発している「カキトリ機」に着目します。7年にも及ぶ長い期間、試作に試作を重ねていよいよ完成が近づいてきました。これまでの道のりや苦勞をぜひご覧ください!



第2号



第1号

ソリにブルドーザーのようなものを取り付けた、手押し車の進化版

約7年前のことです。雪かきをイメージして開発に踏み切ったのですが、雪と砂では全く別物でした……。砂は予想以上に重く、雪のように掻き出すことはできませんでした。



第3号

ベルトコンベアーを搭載

次は一輪車に乗せるということで、横にベルトコンベアーを搭載することに。しかし、市販で販売されているベルトコンベアーではサイズが合いません。そこで独自のベルトコンベアーを考案・試作することに。特許を取得しようと考えたこともあったのですが、現段階では適応できているのが一現場のみということを鑑みて申請は保留中。今後さまざまな現場で使われるようになった際には、また申請を考えようと思っています。



除雪車をヒントに

農機具などを見て、「当てはまるものはないか」とヒントにしたのが除雪車です。いきなり除雪車を買うのはリスクが高いと思い、まずは中古の小さいものを購入。しかしその除雪車は、キャタピラではなくタイヤで動く仕様だったため、車体が砂に潜ってしまうという結果に。さらに雪を上に乗せず除雪車の仕組みに、重い砂は適応することができませんでした。砂がうまく飛んでいくように羽の形状や角度を改良する必要があったのです。

第4号



第5号



第6号



第7号



苦勞したこと

繰り返し行った数え切れないほどの試作

まずは当社の現場(和歌山の岩出市、広島海田町)での実用が目標。試作や改良は現場外でもできますが、実践テストについてはそうはいきません。テスト可能なタイミングは年3回で、1号につきそれぞれ1か月半ほどかかります。そこで打った手が「当社の敷地内に砂を入れて実験場を作る」こと。そこで予備実験を行い、形や高さを大まかに決めていました。適応したものは現場に持って行き、テストを実施。しかし実験場では問題なかったものも、現場では状況が一変し全くうまくいかないことも……。一進一退だったと思います。こうして何度も試作を繰り返し、タケミの「カキトリ機」が作り上げられています。

第8号

完成まで、お楽しみに!



現在のカキトリ機、そして完成へ

完成まではあと2~3か月だと踏んでいます。直近で岩出市の現場にて確認を行ったところ、好感触を得ることができました。また8月下旬~10月上旬にかけても現場を訪問するので、そこで最終的な確認をして実際に業務として使えること保証したいと考えています。